

幼児教育の文化的意味

- 日本 , アメリカ , 中国における文化間および文化内比較 -

東京女子大学	唐澤真弓
アリゾナ州立大学大学院	林安希子
東京女子大学大学院	松本朋子
清泉女学院大学	向田久美子
アリゾナ州立大学	トビン・ジョセフ
メンフィス大学	朱 璜

Cultural Meaning of Early Childhood Education

- Intracultural and Intercultural Comparisons Among three cultures, Japan, the United States, and China -

Tokyo Woman's Christian University	KARASAWA Mayumi
Arizona State University	HAYASHI Akiko
Tokyo Woman's Christian University, graduate program	MATSUMOTO Tomoko
Seisen Jogakuin University	MUKAIDA Kumiko
Arizona State University	TOBIN Joseph
University of Memphis	HSHU Yeh

幼稚園・保育所は、社会の中に組み込まれた組織でありながら、また社会の一員である幼児を育てる役割をもっている。社会が変化するとき、果たして幼児教育の意味は何が変化し、また時間を経ても共有されるのか。この研究では、幼児教育の子どもにとっての意味と社会的意義、保育者の意味について Preschool in three cultures で用いられた質問項目を用いて、実施した。その結果、89年の調査と同じように文化間差異が見出された。また、文化内での変化も見られ、社会や文化における教育体制や政策の変化が反映された結果が得られた。特に中国では、教育カリキュラムや指針の欧米化を強く示す傾向が見出された。

【キー・ワード】 幼児教育の文化的スクリプト、文化間差異、文化内共通性、文化内変化

Preschools Socialize small children who are social members, though they are the organizations incorporated into the society. Therefore, social changes are associated with changing preschool practices in Japan, U.S. and China. In this study, we used the questionnaire used originally by Tobin and colleagues for meaning of preschool for children, importance of preschool in society and important character of teachers in preschool. As a result, we could find the consistency for the

meaning of preschool as well as intracultural differences to changing society.

【Key Words】 Early childhood education, intracultural difference, inter cultural difference

問 題

1980 年代、「Preschool in Three Cultures(3 つの文化における幼児教育)」の研究が、Joseph Tobin, David Wu, Dana Davidson によって行われた。この研究は、1989 年に出版され、研究で使用されたビデオと共に現在、アメリカの教育学、社会学、心理学および文化人類学の授業でよく用いられている。そこには、幼稚園や保育所の中でおきる日常的な出来事、幼児と保育者との関わり方、子ども同士の関係などに、文化にある子ども観、幼児教育の意味が反映されていることがみてとれる (Tobin, et. al., 1989)。この研究が広く引用される理由の一つは、方法のユニークさにある。Multi-vocal ethnography と呼ばれるこの方法では、日本とアメリカ、中国の普通の幼稚園の 1 日をビデオで記録し、それを 20 分程度にまとめて、教師や幼児教育関係者、また幼児教育に関係する分野を学んでいる大学生、短期大学生にみせる。ビデオをみる対象者は 4 種類である。Insider (同一文化内の視点) としては、研究対象となった幼稚園保育所のほかの保育者、同じ文化内の異なった地域の保育者および保育関係の学生の 2 つ、Outsider (異文化からの視点) としては、異なった文化で研究対象となった幼稚園保育所の保育者、異なった文化の研究対象ではない幼稚園保育所関係者と学生 2 つである。同じビデオ刺激をみながら、4 つの視点から、さまざまな声が発せられる。幼児教育のあり方、方法、カリキュラムなどについて、その方法の違いと共通性が指摘されていく。ときに、自らの文化ではよいとされる方法が、別の文化では適切ではないと逆の意味を持つ場合がある。例えば、日本の保育所で友達にけんかをしかけた子どもに対し、教師は自分で間違いがわかるまで待とうとするが、それは中国、アメリカからみると教師の責任を果たしていないとコメントされることになる。文化によって異なった対処が示され、さらに異なるだけではなく、「良いこと」が「悪いこと」になり、当たり前前の出来事が、異文化のものからみれば、当たり前ではなくなる。文化特有の出来事になるのである。

この研究は、大変興味深いものであるが、今日みるといささか古めかしい印象を与える。幼児教育の場は、社会性を形成すると同時に文化性を形成する場でもある。そうであるならば文化の変化によって、カリキュラムや保育方法だけでなく、保育者と子どものありかた、親の関わり方なども変化することが考えられる。ビデオが撮影された当初から 20 年近く、日本、中国、アメリカは各国を取り巻く状況は、変化している。またインターネットや通信手段の進化、渡航頻度の高まりによる異文化体験の増加など、グローバルイゼーションが進む中、幼児教育において文化差をみることは果たして可能なのであろうか。Tobin, Yeh, 唐澤は、文化の中の一貫性と変化をみるために、89 年と同じ方法を用いて、New Preschool in three cultures プロジェクトを立ち上げた。

このプロジェクトでは幼児教育の場は、子どもの社会性を育み、文化的価値観を伝えると同時に、社会的変化や時代の変遷に適応していく、文化的・社会的機関と考える。80 年代と比べ今日、日本では少子化傾向が強まり、中国では社会的・経済的発展がめざましく進み、アメリカでは移民問題が増大している。幼児教育が社会・文化を反映するものであるならば、こうした社会・文化の時間的変

動が、幼児教育や子ども観にも反映されているはずである。

この20年間、日本、アメリカ合衆国、中国における社会変動は著しい。特に中国においては、経済的發展と一人っ子政策により、子どもの教育への投資が増加している。政府の関心も幼児教育に多く注がれ、大幅なカリキュラム改訂がなされてきた。欧米や日本の幼児教育を参考にしたプログラムは、89年のインタビューにあった集団的保育に対し、より子ども中心の教育への変化を示している。こうした社会の変化、教育体制そのものの変化に対応して、幼児教育に対する期待も変化すると考えられる。1989年のアンケート調査による結果で、幼稚園で学ぶこととして重要とされた項目は、日本では子どもが社会的・協調的關係を幼稚園で学ぶことであつたのに対して、アメリカでは他者との關係性と、創造性や自立を身につけることを重要視しており、中国では言語や認知能力といったアカデミックなスタートとして幼稚園を意味づけていることが強く示された。この結果は、幼児教育の文化的意味の相違を示したものである。日本で優勢な相互協調的自己觀の中心的テーゼである關係性の重視が幼稚園で学ぶこととして重要視されており、文化にある人間觀、子ども觀が反映されている。しかし、中国のように、欧米化、個性化を重視する形で、社会および教育体制の変化が生じた場合、このような文化的特性は維持されるのだろうか。それともよりアメリカに近いものというように文化の中で変化していくものなのだろうか。

こうした社会・文化的變動の中で、幼児教育の意味はどのように変化したのか、また変化していないのかを考えることは、文化比較研究における同一文化内の歴史的比較と異文化間における比較をとらえることになり、文化と子どもの發達の關係を考えていく重要なアプローチとなる。本研究では、Tobinら(1989)の方法を手がかりに、文化にある人間觀、子ども觀の変化と一貫性を、検討していく。

方 法

Tobinらの調査(1989)と同様の質問紙を用いて、同一のレベルの対象、同一文化内および異文化内の教育学科および教育学發達心理学受講の大学生と幼稚園・保育所の教師や教育学・發達心理学關係の研究者を対象に調査を実施した。質問の内容は、1.子どもが幼稚園にて学ぶのに大切なこと(“What are the most important things for children to learn in preschool?”)、2.社会にとっての幼稚園・保育所の必要性(“Why should a society have preschool?”)、3.幼児教育の先生としての重要な特質(“What are the most important characteristics of a good preschool teacher?”)、3つである。89年の調査と同様に、選択肢の中から、重要だと思つたものを判断させた。問1の選択肢としては、「がまんすること」「他者と協調して、グループの一員になること」「思いやり、共感性、他者への配慮」「創造性」「文字を読みはじめたり、数を学びはじめること」「礼儀正しさ」「自分に自信を持ち、独立自立すること」「芸術的能力(音楽やダンスなど)」「言語やコミュニケーション能力」「運動能力」「健康であること」「身の回りを清潔にすること」の12項目である。問2は、「子どもに勉強へのよいスタートの機会を与えるため」「子どもを甘やかさないようにし、親のしつけの短所を補うため」「両親が働いたり、ほかの時間を持つことができるようにするため」「子どもが友だち同士

で遊ぶ機会を与えるため」「子どもが社会の一員になるためにはどうしたらよいか学ぶため」「グループの良きメンバーとなるための経験を子どもに与えるため」「子どもに遊ぶ場所を与えるため」「子どもが自立し、自信を持つことができるようになるため」の 8 項目、問 3 については「愛情と熱意があること」「子どもの親と十分なコミュニケーションがとれること」「日常の仕事の中で、鍵となる問題に取り組むことができる」「経験が十分である」「創造的」「熱心で良心的」「子どもを理解し、楽しんでいること」「子どもをよく勉強させること」「辛抱強いこと」9 項目からなる。この中から、「最もあてはまることから 3 つ選び順位をつけてください」として、判断を求めた。「調査はビデオを見て、インタビューを実施する前に行われた。文化内変動を検討するために、89 年のデータと比較する際に、大学生と幼児教育従事者の割合の相違や幼児教育従事者の経験などが文化内で異なることが懸念された。大学生のデータについてのみ報告する。以前の調査から抽出された調査対象者の数は、89 年日本人大学生 187 名、アメリカ人大学生 156 名、中国人大学生 50 名である。また、この調査は日本人大学生 121 名、アメリカ人大学生 147 名、中国人大学生 157 名である。

結 果

分析は、最も大切なものとして選択されたものを first choice として (Table 1.1-1.3), 大切なものとして 3 番目までに選択されたものを top 3 と (Table 2.1-2.3) した。その結果、それぞれの質問項目において、文化間差異と文化内差異と共通性がみいだされた。

Table 1.1 “ What are the most important things for children to learn in preschool? ”

(FIRST CHOICE (%))	China		Japan		USA	
	1989	2003	1989	2003	1989	2003
がまんすること	13.14	8.30	2.04	3.70	3.52	2.00
他者と協調して、グループの一員になること	37.29	33.80	29.59	26.85	31.66	25.20
思いやり、共感性、他者への配慮	3.81	5.10	31.29	39.81	5.03	14.30
創造性	16.53	8.90	9.18	5.56	5.53	5.40
文字を読みはじめたり、数を学びはじめること	5.51	0.60	0.00	0.00	1.01	2.00
礼儀正しさ	0.00	2.50	0.00	0.00	0.00	0.70
自分に自信を持ち、独立自立すること	6.36	14.60	10.88	0.93	33.67	19.00
芸術的能力 (音楽やダンスなど)	0.85	0.00	0.34	0.93	0.50	1.40
言語やコミュニケーション能力	3.81	5.70	0.68	12.96	7.54	27.20
運動能力	1.27	0.00	0.34	0.93	1.01	2.00
健康であること、身の回りを清潔にすること	11.44	17.20	13.95	8.33	1.01	0.70

Table 1.2 “ Why should a society have preschool? ”

(FIRST CHOICE (%))	China		Japan		USA	
	1989	2003	1989	2003	1989	2003
子どもに勉強へのよいスタートの機会を与えるため	37.29	22.30	0.34	1.85	20.50	26.50
子どもを甘やかさないようにし、親のしつけの短所を補うため	2.97	3.80	0.34	0.93	0.50	0.00
両親が働いたり、ほかの時間を持つことができるようになるため	16.53	3.80	1.36	4.63	6.50	2.00
子どもが友だち同士で遊ぶ機会を与えるため	8.05	1.90	13.90	37.96	14.00	21.80
子どもが社会の一員になるためにはどうしたらよいか学ぶため	11.44	28.00	5.42	32.41	3.50	10.90
グループの良きメンバーとなるための経験を子どもに与えるため	12.29	24.20	61.36	12.04	19.00	17.70
子どもに遊ぶ場所を与えるため	0.85	4.50	3.39	0.93	4.50	2.70
子どもが自立し、自信を持つことができるようになるため	10.59	8.30	13.56	9.26	21.00	12.90

Table 1.3 “ What are the most important characteristics of a good preschool teacher? ”

(FIRST CHOICE (%))	China		Japan		USA	
	1989	2003	1989	2003	1989	2003
愛情と熱意があること	50.85	1.90	42.21	34.26	18.09	28.60
子どもの親と十分なコミュニケーションがとれること	3.39	0.00	1.04	3.70	1.51	0.70
日常の仕事の中で、鍵となる問題に取り組むことができる	0.85	20.40	4.50	1.85	4.02	2.70
経験が十分である	2.54	0.00	0.69	1.85	3.02	5.40
創造的	4.24	1.90	4.84	0.93	0.00	4.10
熱心で良心的	3.39	26.10	6.57	3.70	9.55	8.20
子どもを理解し、楽しんでいること	33.90	47.10	23.53	50.00	56.78	49.00
子どもをよく勉強させること	0.85	0.60	0.35	0.00	0.00	0.00
辛抱強いこと	0.00	0.60	15.92	3.70	2.51	1.40

Table 2.1 “ What are the most important things for children to learn in preschool? ”

TOP3 (%)	China		Japan		USA	
	1989	2003	1989	2003	1989	2003
がまんすること	6.64	0.06	5.55	7.41	2.01	1.60
他者と協調して、グループの一員になること	18.93	21.40	21.20	19.44	22.61	23.60
思いやり、共感性、他者への配慮	6.78	8.30	23.92	25.31	13.07	14.50
創造性	17.80	12.10	10.09	10.19	9.21	9.50
文字を読みはじめたり、数を学びはじめること	7.77	1.30	0.34	2.16	3.86	3.40
礼儀正しさ	0.57	4.70	0.11	1.85	0.17	0.20
自分に自信を持ち、独立自立すること	9.32	18.30	13.15	2.78	22.11	15.40
芸術的能力（音楽やダンスなど）	2.40	0.20	1.47	2.16	1.00	1.60
言語やコミュニケーション能力	9.04	11.50	1.70	15.12	12.73	23.80
運動能力	0.85	0.00	1.25	1.54	2.01	3.20
健康であること、身の回りを清潔にすること	19.91	13.20	16.10	12.04	2.51	2.90

Table 2.2 “ Why should a society have preschool? ”

TOP3 (%)	China		Japan		USA	
	1989	2003	1989	2003	1989	2003
子どもに勉強へのよいスタートの機会を与えるため	22.46	0.18	0.79	9.26	15.50	17.20
子どもを甘やかさないようにし、親のしつけの短所を補うため	3.81	5.50	0.79	6.79	0.67	0.70
両親が働いたり、ほかの時間を持つことができるようになるため	15.26	7.60	2.60	11.11	8.67	2.00
子どもが友だち同士で遊ぶ機会を与えるため	8.05	5.10	23.61	24.07	12.50	15.40
子どもが社会の一員になるためにはどうしたらよいか学ぶため	9.89	14.40	6.10	17.59	4.83	9.50
グループの良きメンバーとなるための経験を子どもに与えるため	15.54	20.20	30.74	17.28	20.67	19.00
子どもに遊ぶ場所を与えるため	2.54	4.50	7.46	2.78	5.00	5.00
子どもが自立し、自信を持つことができるようになるため	22.46	17.20	26.10	11.11	21.33	18.60

Table 2.3 “ What are the most important characteristics of a good preschool teacher? ”

TOP3 (%)	China		Japan		USA	
	1989	2003	1989	2003	1989	2003
愛情と熱意があること	22.13	12.70	25.72	25.31	22.28	22.70
子どもの親と十分なコミュニケーションがとれること	7.77	3.40	4.15	11.11	9.05	12.70
日常の仕事の中で、鍵となる問題に取り組むことができる	2.82	5.90	7.27	6.17	6.37	5.90
経験が十分である	9.04	4.20	3.23	3.70	3.69	4.50
創造的	14.05	15.70	12.57	5.25	7.71	8.40
熱心で良心的	4.24	20.80	7.50	10.80	13.57	14.70
子どもを理解し、楽しんでいること	27.69	26.80	18.11	28.40	27.30	27.40
子どもをよく勉強させること	11.87	1.90	0.35	0.62	0.34	0.20
辛抱強いこと	0.70	6.40	20.88	8.64	5.19	3.40

問 1 子どもが幼稚園で学ぶのに一番大切なことは何ですか？

日本：「思いやり、共感性、他者への配慮」は 1989 年、2003 年ともに、他の文化と比べて高い割合でなっている。このことは日本の幼児教育では、他者との協調性を重視する傾向が強いことを示す。「文字を読みはじめたり、数を学びはじめる」といった、アカデミックな内容は 3 カ国の中で最も割合が低いといった、89 年の傾向も変化していない。同一文化内で変化を注意してみると、言語やコミュニケーション能力の必要性がやや高くなっている。しかし、これ以外については、89 年と 03 年で大きな変化はみられなかった。

アメリカ：「自分に自信を持ち、独立自立すること」は、他国に比べて高いものの、03 年では 89 年よりも低くなっている。これに対して、「言語やコミュニケーション能力」の項目が 7.54% から 27.2% となり、大きく上昇している。このことは、近年のアメリカの幼児教育の政策と一致しているといえよう。アメリカ合衆国で 2002 年 1 月に可決された教育改革法「No Child Left Behind Act of 2001 (NCLB)」では、おちこぼれをなくすために、就学前教育におけるアカデミックなカリキュラムが盛りこまれた。高い失業率や拡大する貧富の差、デジタルディバイドへの恐れや移民問題、子どもの早期

教育を望む親が増加し、また政策も早期教育の必要性を明確にしている。こうした社会的背景が、幼児教育についての考え方、文化的意味を変化させたともいえよう。

中国：アカデミックな要求を示す「文字を読み始めたり、数を学びはじめること」の項目が激減している。アメリカとは反対の傾向は興味深い。また逆に、「自分に自信をもち、自立すること」が増加している。2001年の幼稚園教育に関するガイドラインでは、「子どもの個性を尊重し、子どもが成長する存在であり、また共に学ぶ存在である」ことが掲げられており、教育の欧米化、子どもの自由を尊重する方向が反映しているといえるであろう。しかしながら、「他者と協調して、グループの一員となること」といった集団への志向は、アメリカと比べて多く、中国における集団主義傾向といった文化的意味の一貫性をみることもできる。

問2 なぜ、社会は幼稚園を持つべきですか？

日本：「グループの良きメンバーになるための経験を子どもに与えるため」や「社会の一員となるためにはどうしたらよいか学ぶこと」といったグループへの志向は、アメリカに比べて現在も大きくなっている。「子どもに勉強へのよいスタートの機会を与えるため」の項目はやや増加しているものの、他国に比べて、最も低い。「両親が働いたり、ほかの時間を持つことができるようにする」項目が、他国に比べて割合が低いながらも、増加している。これは、母親の就業率の増加により、保育園の収容人員が幼稚園の収容人員よりも多くなったことなどから推測できるであろう。

アメリカ：問1と同様に、「子どもに勉強へのよいスタートの機会を与える」ための項目が増加している。子どもの能力への懸念というよりも、NCLB法が、社会での子どもの育成を考えるとということが強く反映されたものであることを示すものであろう。また、社会の一員となるためにはどうしたらよいか学ぶこと」「友達同士で遊ぶ機会を与える」といった項目が増え、「両親が働いたり、ほかの時間を持つことができるようにする」項目の減少となっている点は日本とは異なっている。

中国：「子どもに勉強へのよいスタートの機会を与える」ための項目は激減している。これは、問1で得られた傾向と同じである。一人っ子政策の定着と共に、「グループの良きメンバーになるための経験を子どもに与えるため」や「社会の一員となるためにはどうしたらよいか学ぶこと」といった対人関係、社会的スキルの側面が、就学前教育において、重視されていることを示すものであろう。日本と異なり、「両親が働いたり、ほかの時間を持つことができるようにする」項目は減少している。これは、文化大革命期の中国では、幼稚園は働く親の代わりに子どもを育てるシステムで、多くの幼稚園が全寮制であり、89年の研究もその影響が残存するなかで行われていたが、近年、子ども中心主義への転換をはかる政策が認識されたこととあいまって、こうした変化を示したと考えられよう。

問3 よい幼稚園の先生として一番重要な特徴は何ですか？

3カ国に共通していることは、1989年、2003年ともに、「愛情と熱意のあること」、「熱心で良心的」、「子どもを理解し、楽しんでいること」が高い得点であるということである。

日本：「辛抱強いこと」が減少し、「子どもを理解し、楽しんでいること」の項目が増加したことは、教員や保育者に求められている資質が変化したことを示しているだろう。それ以外は、大きな変化が

みいだされなかった。

アメリカ：特に大きな文化内での変化はみいだされなかった。「経験が十分であること」が求められているのは、就学前教育に関わるものが必ずしも十分な教育を受けていなかったり、資格を持っていなかったりするといった状況への懸念を示すものかもしれない。

中国：問 1, 2 と共通して、「子どもをよく勉強させること」の項目は減少している。代わりに、「熱心で良心的」「日常生活の中で鍵となる問題に取り組むことができる」などが増加している。このことは、教師が権威を持って教えるモデルから、子どもの生活に目を向け、子どもの視点をもって教えるモデルへと、教師モデルが変化しつつあることを示すものであろう。

考 察

今回の交差的比較研究において、1989 年の研究と同様、幼児教育の文化的相違が見いだされたと同時に、文化内の差異が示された。特に教育をめぐる社会体制の変化が、教育を学ぶ各文化の学生の中に認識され、それらが調査の結果に表わされている。中国では、1979 年にはじまった一人っ子政策のために、幼児教育は国民から大きな関心を寄せられ、また国の政策にとっても重要な課題となった。また近年のめざましい経済発展に伴い、親による幼児教育への投資も、就学前教育への関心を高めたといえよう。そうした中で実施された幼稚園教育のカリキュラム改訂も、子どもの個性を尊重することをはっきり示している。寮制度による教育重視一斉保育からの転換が認知され、欧米をモデルとした個を大切に教育へと変化しようと試みていることが、今回の調査からもみてとれるだろう。アメリカにおいても、移民問題の増大に伴う、高い失業率や貧富の格差による子どもの教育水準への懸念が就学前教育にも反映され、それが広く認識されていると今回の結果からいえるであろう。日本においても、少子化や母親の就業率の変化により、幼児教育に対する考えが少し異なった様相となってきた。日本と中国が以前よりはアメリカの結果に近くなり、また、保育者・教師の認識では共通した認識が強いことも示され、グローバルイゼーションが進行する中での就学前教育の通文化性もみることができた。

しかしまた、文化間差異も除外することができない。例えば、日本における共感性や他者への思いやりの重視は、20 年近くを経て、根強くあることが示されている。幼児教育は、文化内変動と文化間差異を併せもち、社会文化的機能をもつ institution であることが理解できるだろう。

今回の報告は、大学生のみを対象にしているため、十分なものとはいえない。今後、就学前教育関係者を含めた分析や、経験の差異を含めた分析を行うことが必要であろう。また、ビデオへのインタビュー調査で得られた交差的比較データも統合した上で、就学前教育の文化的意味を討論していくことが望ましい。

参考文献

Ben-Ari, E. (1997). *Body Projects in Japanese Childcare: Culture, Organization, and Emotion in*

- a Preschool*. London: Curzon.
- Cole, M. (1996). *Cultural psychology: A once and future discipline*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Cole, M. & Cole, S. (2001). *The development of children*, (4th ed.). New York, NY: Worth Publishers.
- Harkness, S., & Super, C. M. (Eds.) (1996). *Parents' cultural belief systems: Their origins, expressions, and consequences*. New York, NY: The Guilford Press.
- Holloway, S. (2000). *Contested Childhood: Diversity and Change in Japanese Preschools*. New York: Routledge Falmer.
- Kang, Yan (2001). *Understanding Shanghai: 1990-2000*. Shanghai: People's Press. [康燕 (2001) 《解剖上海:1990-2000》上海人民出版社]
- Liu, Yongliang (Ed.) (1999). *The negative population growth and family planning in Shanghai*. Shanghai: Shanghai Science and Technology Press. [□ 永良 (主 □)(1999)《上海人口 □ 增 □ 与 □ □ 生育》上海科学技 □ 出版社]
- Rogoff, B. (2003). *The cultural nature of human development*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- Tobin, J., Wu, D. & Davidson, D. (1989). *Preschool in Three Cultures*. New Haven: Yale University Press.
- Tobin, J. (1992). "A Dialogical Approach to the Problem of Field Site Typicality." *City and Society*.
- Tobin, J., Karasawa, M. & Hsueh, Y. (2003). Komatudani Then and Now: Continuity and Change in a Preschool, *Journal Contemporary Issues in Early Childhood*, 5,2, 128-144.
- Whiting, B. D. C. Edwards. (1988). *Children of Different Worlds: The Formation of Social Behavior*. Cambridge: Harvard University Press.
- Zhao, Liangen (2001). *The assessment of educational supervision in regional development*. Chengdu: Sichuan People's Press. (□ □ 根 (2001)《区域 □ 展性教育督 □ □ 估概 □ 》四川人民出版社)
- Yeh, S., Tobin, J., & Karasawa, M. (2005) The Chinese Kindergarten in Its Adolescence, *prospect*, 47, 457-469 UNESCO,

< 付 記 >

本研究は、スポンサー財団による“Continuity and Changes in preschool in three cultures(研究代表者: Joseph Tobin)”，および「行為の理解，推測，評価の認知的枠組としての文化的スクリプト：日・米・中比較研究(課題番号 14310062)研究代表者: 東洋」による補助を受けた。

< 謝 辞 >

調査の実施にあたり、日本、アメリカ、中国の幼児教育に携わる学生の方々をはじめ多くの皆様にご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。